Contents

1. はじめに 1

2. Knowledge Script の日本語化対応方式の変更について 2

3. オペレータコンソールでの見え方 4

4. XML のスキーマ 7
DTD の説明 8
各要素の説明 8

4.コピーした KS のパラメータを日本語表記にする 14

AppManager 6.0J KS の日本語化対応方法の変更について

第 1.0 版 January 21, 2005

1. はじめに

この文書は、NetIQ AppManager 6.0 J に、標準 KS をコピーしたときに、英語表記で表示されます。これは、現在のバージョンの仕様による現象です。

このドキュメントでは、現在のバージョンの KS パラメータの表現の方法と、KS をコピーしたときに、パラメータを日本語表記にする手順を記述します。

また、仕様にもとづいて、カスタム KS を作成する場合の手続きを記述しています。

2. Knowledge Script の日本語化対応方式の変更について

従来、日本語版 Knowledge Script（以下 KS）は（UNIX 及び ResponseTime モジュールを除く）、スクリプト部分は英語版と基本的な動作は同一でしたが、UI 上での日本語表示を実現するために、KS 内にハードコードされているジョブパラメータの説明部分やイベント及びデータ詳細に使用される文字列を直接日本語文字列に置換していました。このため、日本語版 KS は英語版とは別のファイルとして扱う必要があり、英語版の KS が変更された場合に、それをそのまま日本語版用に使用することはできませんでした。

6.0J からは、この方式を変更し、日本語版においても KS は、英語版と同等のものを使用します。しかしながら、ジョブプロパティや KS プロパティに表示される文字列は日本語で表示されます。これは、UI の実行時に表示文字列を置換することによって日本語の表示が行われており、リポジトリ内にある KS そのものやジョブ自身にはこれらの日本語は含まれません。

日本語表示文字列は、AppManager のインストールパス内 bin ディレクトリ下に配置される NetIQ_JPN.xml というファイルで定義されます。表示文字列の取得には、KS 名がキーとなります。このため、KS のコピー等の機能を用いて KS を複製し、名前を変更した場合、複製元の KS のプロパティでは日本語が表示されていても、複製して名前を変更した KS のプロパティやそれを用いて作成したジョブのプロパティは英語で表示されます。

日本語特有の機能を含む KS 、アプリケーションモジュールについて

6.0J でサポートされるアプリケーションモジュールで使用する KS は、原則として上記の新方式を使用（つまり英語版の KS と同一のものを使用）しますが、これに該当しない（日本語特有の処理を含むもの等）KS は、分類名の最後に J という文字を付加した分類名を使用しています（例： BackupExecJ_*.qml）。

ARCServe 及び BackupExec モジュール

ARCServe 及び BackupExec モジュールの KS については、必ずしも前頁の 6.0J の新しい日本語化方式に該当していませんのでご注意ください。これは、ARCServe 及び BackupExec モジュールの実現方式が日本語依存の部分があり英語版の KS をそのまま使用できないためと、サポートする対象アプリケーションのバージョン等の事情により、このような形式を取っています。

下記に、ARCServe 及び BackupExec モジュールの KS が AppManager のそれぞれのバージョンでどのように扱われているかを表にまとめますので、参考にしてください。

ARCServe モジュール			
AppManager バージョン	KS 分類名	日本語化方式	6.0J ドキュメント内容との一致
5.0J	ARCserve	旧（ハードコード）	不一致
6.0J	ARCserveJ	新（NetIQ_JPN.xml）	一致

BackupExec モジュール			
AppManager バージョン	KS 分類名	日本語化方式	6.0J ドキュメント内容との一致
5.0J	BackupExec	旧（ハードコード）	不一致
5.0J アップデート	BackupExec90	旧（ハードコード）	一致
6.0J	BackupExecJ	旧（ハードコード）	一致

ただし、ARCServe 及び BackupExec モジュールの Report KS については、分類名は、ArcServe_Report 及び BackupExec_Report となり、日本語特有の分類名にはなりませんので（英語版と共通のため）、ご注意ください。

6.0J の BackupExec モジュールでは、BackupExec 8.6 はサポート対象外です。また、日本語版以外の言語バージョンの BackupExec もサポートしていません。

3. オペレータコンソールでの見え方

AppManager 6.0J より、2 章で説明しているとおり、リポジトリに格納されている KS は、英語版 AppManager 6.0 と同等のものが登録されています。以前のバージョンにおきましては、日本語にローカライズされた KS が登録されており、英語版バージョンと KS に差異がありました。 そこで、AM6.0J より、この差異をなくし、英語版で修正された KS およびモジュールをすぐに日本語環境へ適用できるようにするために、表示部だけを日本語で表示できるように、ラッパープログラムが実装されるようになっています。

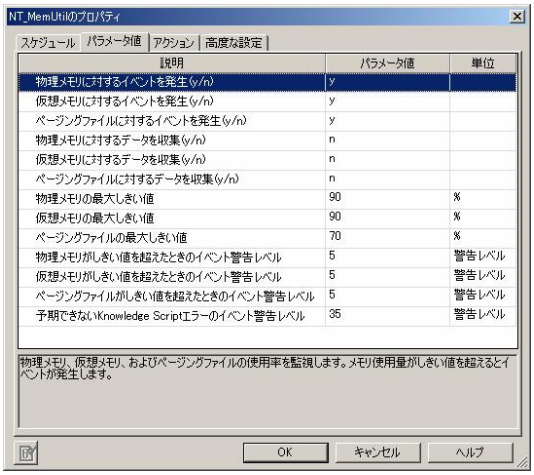
そのソースとなる情報（日本語に置き換えるための情報）は、XML（NetIQ_JPN.XML ※ AppManager 導入ディレクトリの bin 配下に存在）で定義されています。

つまり、XML で定義されていないパラメータを記述や、KS 名をリポジトリにチェックインするとパラメータは英語表記になります。

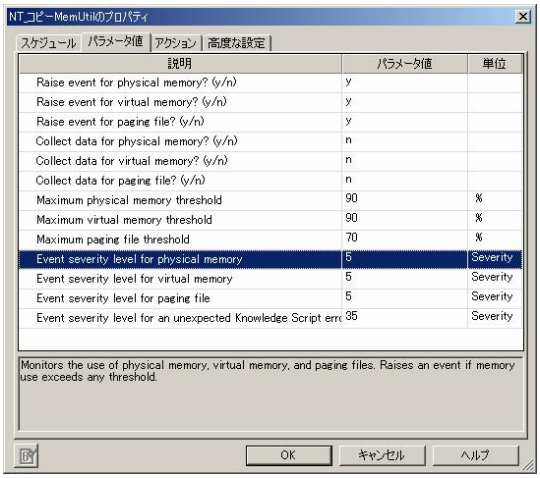
※ 直接 KS 内で日本語を使用してパラメータを定義すると日本語で表示されます。これは、今までと同様です。

AM6.0J の KS をコピーした場合の例

コピー前



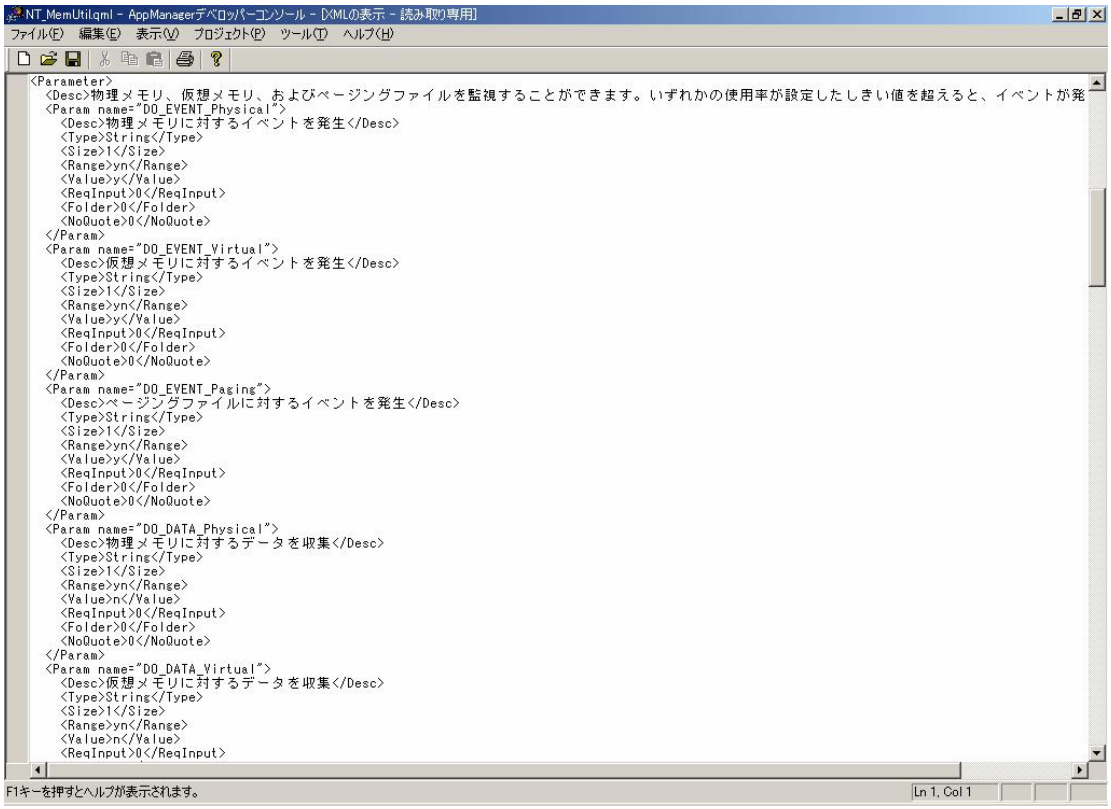
コピー後



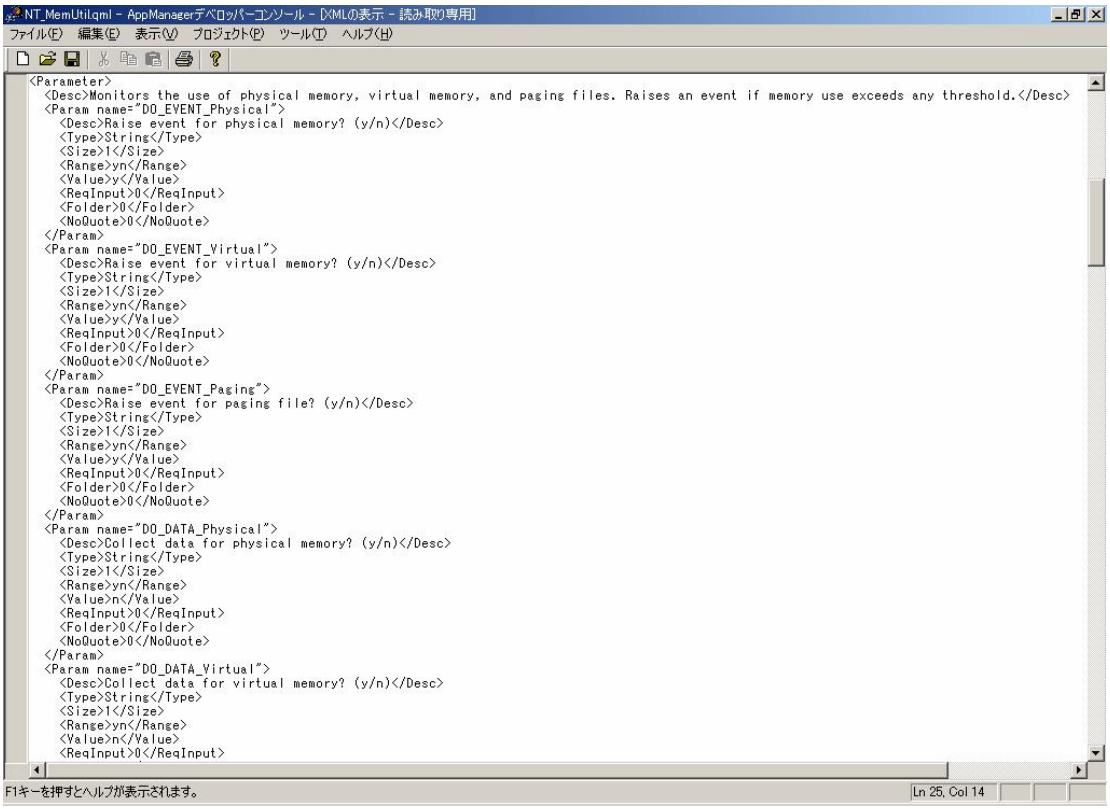
以前は、これらの KS で定義されているパラメータ情報をすべて変更していましたが、AM6.0J より KS 本体は英語版と同じものを使用しているため、基本的にすべて、英語で定義されています。

KS をチェックアウトして、KS を参照していただくとより違いがわかります。

例 AM5.0J の KS(NT_MemUtil) をチェックアウトして、デベロッパーコンソールで XML 部分を参照した場合



例 AM6.0J の KS(NT_MemUtil) をチェックアウトして、デベロッパーコンソールで XML 部分を参照した場合




```
<Parameter>
  <Desc>Monitors the use of physical memory, virtual memory, and paging files. Raises an event if memory use exceeds any threshold.</Desc>
  <Param name="DO_EVENT_Physical">
    <Desc>Raise event for physical memory? (y/n)</Desc>
    <Type>String</Type>
    <Size>1</Size>
    <Range>yn</Range>
    <Value>y</Value>
    <ReqInput>0</ReqInput>
    <Folder>0</Folder>
    <NoQuote>0</NoQuote>
  </Param>
  <Param name="DO_EVENT_Virtual">
    <Desc>Raise event for virtual memory? (y/n)</Desc>
    <Type>String</Type>
    <Size>1</Size>
    <Range>yn</Range>
    <Value>y</Value>
    <ReqInput>0</ReqInput>
    <Folder>0</Folder>
    <NoQuote>0</NoQuote>
  </Param>
  <Param name="DO_EVENT_Paging">
    <Desc>Raise event for paging file? (y/n)</Desc>
    <Type>String</Type>
    <Size>1</Size>
    <Range>yn</Range>
    <Value>y</Value>
    <ReqInput>0</ReqInput>
    <Folder>0</Folder>
    <NoQuote>0</NoQuote>
  </Param>
  <Param name="DO_DATA_Physical">
    <Desc>Collect data for physical memory? (y/n)</Desc>
    <Type>String</Type>
    <Size>1</Size>
    <Range>yn</Range>
    <Value>n</Value>
    <ReqInput>0</ReqInput>
    <Folder>0</Folder>
    <NoQuote>0</NoQuote>
  </Param>
  <Param name="DO_DATA_Virtual">
    <Desc>Collect data for virtual memory? (y/n)</Desc>
    <Type>String</Type>
    <Size>1</Size>
    <Range>yn</Range>
    <Value>n</Value>
    <ReqInput>0</ReqInput>
```

4. XML のスキーマ

NETIQ_JPN.XML ファイルの XML スキーマは、以下の DTD（Document Type Definition）で構成されており、要素（ELEMENT）と属性要素（ATTLIST）で宣言されています。

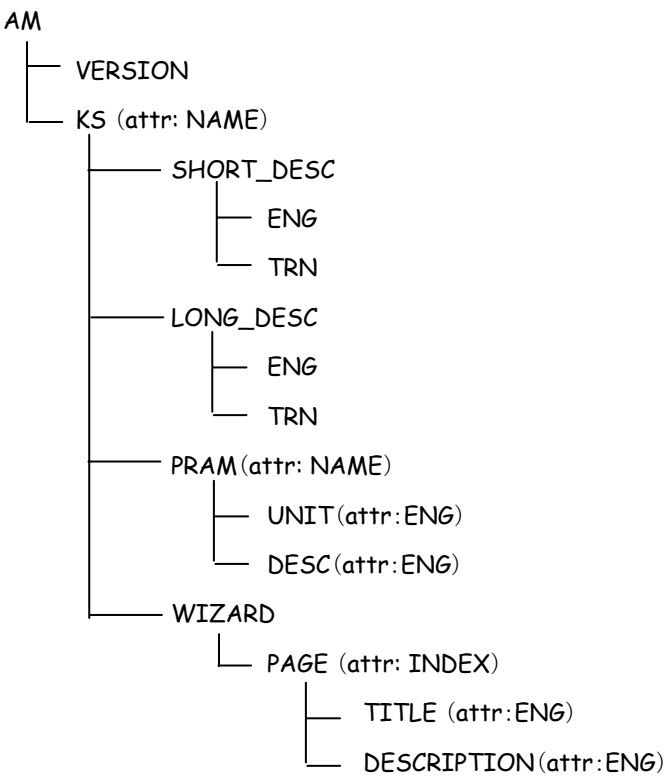
※ **NetIQ_JPN.XML を修正/変更することは、弊社ではサポートしておりません。参照のみ行ってください。**

```
<!DOCTYPE AM [
<!ELEMENT AM (VERSION,KS*)>
<!ATTLIST AM  LGID CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT VERSION (#PCDATA)>
<!ELEMENT KS (SHORT_DESC*, LONG_DESC*, PARAM*,WIZARD*)>
<!ATTLIST KS  NAME CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT SHORT_DESC (TRN,ENG)>
<!ELEMENT LONG_DESC (TRN,ENG)>
<!ELEMENT ENG (#PCDATA)>
<!ELEMENT TRN (#PCDATA)>
<!ELEMENT PARAM (DESC*, UNIT*)>
<!ATTLIST PARAM  NAME CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT DESC (#PCDATA)>
<!ATTLIST DESC ENG CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT UNIT (#PCDATA)>
<!ATTLIST UNIT ENG CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT WIZARD (PAGE+)>
<!ELEMENT PAGE (TITLE*, DESCRIPTION*)>
<!ATTLIST PAGE INDEX CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT TITLE (#PCDATA)>
<!ATTLIST TITLE ENG CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT DESCRIPTION (#PCDATA)>
<!ATTLIST DESCRIPTION ENG CDATA #REQUIRED>
]>
```

各 Element の説明は次ページ以降に記載します。

DTD の説明

DTD の構成は以下のような階層構造です。



各要素の説明

AM 要素

この要素には、VERSION と KS 要素が含まれます。

属性要素として LGIN が含まれることになります。

例

```
<AM LGID="JPN">
    <VERSION>1.0</VERSION>
    <KS NAME="NT_MemUtil">
    </KS>
</AM>
```

※この属性要素 LGIN 変更する必要がありません。

VERSION 要素

KS のバージョンを定義します。

※この要素 の値を変更する必要がありません。

KS 要素

この要素には、SHORT_DEC、LONG_DESC、PARAM、WIZARD 要素が含まれます。

属性要素として NAME があります。この NAME が KS 名を一致する必要があります。

前頁から例で説明すると、NT_MemUtil という名前の KS から コピーして、NT_コピーMemUtil となっているので、この属性要素の値と一致するエントリが XML で定義されていれば、オペレータコンソール上で日本語として表示することが可能となります。

例

```
<AM LGID="JPN">
    <KS NAME="NT_コピーMemUtil">
    </KS>
</AM>
```

SHORT_DESC 要素

この要素には、TRN、ENG 要素が含まれます。ここには、KS の説明が記述されます。

例

```
<SHORT_DESC>
    <TRN>物理メモリ、仮想メモリ、およびページングファイルの使用率を監視します。</TRN>
    <ENG>Monitors utilization of physical memory, virtual memory, and paging files.</ENG>
</SHORT_DESC>
```

LONG_DESC 要素

この要素には、TRN、ENG 要素が含まれます。この要素には、KS の詳細な説明が記述されます。

例

```
<LONG_DESC>
    <TRN>物理メモリ、仮想メモリ、およびページングファイルの使用率を監視します。
        メモリ使用量がしきい値を超えるとイベントが発生します。</TRN>
    <ENG>Monitors the use of physical memory, virtual memory, and paging files.
        Raises an event if memory use exceeds any threshold.</ENG>
</LONG_DESC>
```

ENG 要素

SHORT_DESC、LONG_DESC の要素に含まれる要素になります。この要素の値は、KS で定義されている英文です。

TRN 要素

SHORT_DESC、LONG_DESC の要素に含まれる要素になります。この要素の値は、ENG 一致する英文を日本語に翻訳した文章が定義されています。

PRAM 要素

これは、KS で定義されているパラメータ名が定義される要素です。

この要素には、UNIT、DESC 要素が含まれ、属性要素として NAME があります。

例

```
<PARAM NAME="DO_EVENT_PHYSICAL">
    <DESC ENG="Raise event for physical memory? (y/n)">物理メモリに対するイベントを発生(y/n)</DESC>
</PARAM>
```

UNIT 要素

これは、パラメータの単位を定義する要素です。

属性要素として ENG が含まれます。

この ENG に KS で定義されているパラメータの説明文を定義し、“ > ”を使用して、日本文に置き換えるように定義します。

例

<PARAM NAME="PRM_RETRY">

<DESC ENG="SQL Server connection retry attempts">SQL Server の接続リトライ回数</DESC>

<UNIT ENG="Attempts">回</UNIT>

</PARAM>

DESC 要素

属性要素として ENG が含まれます。

この ENG に KS で定義されているパラメータの説明文を定義し、“ > ”を使用して、日本文に置き換えるように定義します。

例

<DESC ENG="Raise event for virtual memory? (y/n)">仮想メモリに対するイベントを発生(y/n)</DESC>

WIZARD 要素

この要素には、PAGE 要素が含まれます。通常の KS では、この要素はほとんど使用しておりません。Install KS など KS で ウィザードを呼び出せる KS のみ、この要素が使用されます。

例

```
<WIZARD>
    <PAGE INDEX="1">
        <TITLE ENG="Event and Remote User Configuration">イベントとリモートユーザの
            設定</TITLE>
        <DESCRIPTION ENG="Set an event notification level for successful completion and
            identify a Windows account to use on the remote computer(s),
            then click Next.">正常に完了したときのイベント警告レベルを設定し、
            リモートコンピュータで使用する Windows アカウントの設定を確認したあと、
            [次へ]をクリックします。</DESCRIPTION>
    </PAGE>
    <PAGE INDEX="2">
        <TITLE ENG="Directory Configuration">ディレクトリの設定</TITLE>
        <DESCRIPTION ENG="Type the distribution directory for AppManager components, and
            directory paths for temporary files, then click Next.">AppManager
            コンポーネントの配布ディレクトリとテンポラリファイルのディレクトリパスを入力したあと、[次へ]をクリックします。</DESCRIPTION>
    </PAGE>
</WIZARD>
```

PAGE 要素

この要素には、TITLE と DESCRIPTION 要素がふくまれ、属性要素として INDEX が含まれます。

TITLE 要素

属性要素として、ENG が含まれます。

この ENG に インストール KS などで ウィザードで表示されるパラメータの説明文を定義し、“ > ”を使用して、日本文に置き換えるように定義します。

例

```
<TITLE ENG="Directory Configuration">ディレクトリの設定</TITLE>
```

DESCRIPTION 要素

属性要素として、ENG が含まれます。

この ENG に ウィザードで表示されるパラメータの説明文を定義し、“ > ”を使用して、日本文に置き換えるように定義します。

例

<DESCRIPTION ENG="Set an event notification level for successful completion and identify a Windows account to use on the remote computer(s), then click Next.">正常に完了したときのイベント警告レベルを設定し、リモートコンピュータで使用する Windows アカウントの設定を確認したあと、[次へ]をクリックします。</DESCRIPTION>

4.コピーした KS のパラメータを日本語表記にする

2 章で説明しているとおり、AM6.0J より、KS をコピーすると、KS のパラメータが英語表記になります。

KS パラメータを日本語にする方法は、以下の 2 つがあります。

1. 直接 KS を Developer Console で修正する
2. NetIQ_CUST.XML ファイルを作成し、管理コンソールを導入しているマシンの AppManager 導入ディレクトリの bin 配下に保存する。

※ NetIQ_JPN.XML ファイルを直接変更することは、サポート対象外になります。スケルトンでの使用と、参照のみ行うようにしてください。

この章では、NetIQ_CUST.XML を作成して、パラメータ表記を日本語にする手順を説明します。

NetIQ_CUST.XML の作成方法

特に専用のツールはありません。メモ帳や市販のエディタツールを使用して作成します。Developer Console では作成できません。

NetIQ_JPN.XML ファイルをコピーし、NetIQ_CUST.XML として保存します。

エディタで NetIQ_CUST.XML を作成します。

※ **注意事項として、作成するファイルは、UTF-8 形式で保存する必要があります。この XML ファイルのエンコーディングは、UTF-8 形式のみサポートします。**

コピーした KS 名と同じストラクチャのところ以外（ただし、DTD を定義している要素宣言の部分は削除してはいけません）を削除します。

例えば、NT_MemUtil をコピーしたときに作成される NT_コピーMemUtil のパラメータを日本語表記にしたいとします。

作成する NetIQ_CUST.XML ファイルの中身は以下のとおりになります。

――― 以下 NetIQ_CUST.XML のサンプル ―――

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<!DOCTYPE AM [
<!ELEMENT AM (VERSION,KS*)>
<!ATTLIST AM  LGID CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT VERSION (#PCDATA)>
<!ELEMENT KS (SHORT_DESC*, LONG_DESC*, PARAM*,WIZARD*)>
<!ATTLIST KS  NAME CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT SHORT_DESC (TRN,ENG)>
```

```
<!ELEMENT LONG_DESC (TRN,ENG)>
<!ELEMENT ENG (#PCDATA)>
<!ELEMENT TRN (#PCDATA)>
<!ELEMENT PARAM (DESC*, UNIT*)>
<!ATTLIST PARAM  NAME CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT DESC (#PCDATA)>
<!ATTLIST DESC ENG CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT UNIT (#PCDATA)>
<!ATTLIST UNIT ENG CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT WIZARD (PAGE+)>
<!ELEMENT PAGE (TITLE*, DESCRIPTION*)>
<!ATTLIST PAGE INDEX CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT TITLE (#PCDATA)>
<!ATTLIST TITLE ENG CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT DESCRIPTION (#PCDATA)>
<!ATTLIST DESCRIPTION ENG CDATA #REQUIRED>
]>
<AM LGID="JPN">
      <VERSION>1.0</VERSION>
      <KS NAME="NT_コピーMEMUTIL">
            <SHORT_DESC>
                  <TRN>物理メモリ、仮想メモリ、およびページングファイルの使用率を監視します。</TRN>
                  <ENG>Monitors utilization of physical memory, virtual memory, and paging
                        files.</ENG>
            </SHORT_DESC>
            <LONG_DESC>
                  <TRN>物理メモリ、仮想メモリ、およびページングファイルの使用率を監視します。
                        メモリ使用量がしきい値を超えるとイベントが発生します。</TRN>
                  <ENG>Monitors the use of physical memory, virtual memory, and paging files.
                        Raises an event if memory use exceeds any threshold.</ENG>
            </LONG_DESC>
            <PARAM NAME="DO_EVENT_PHYSICAL">
                  <DESC ENG="Raise event for physical memory? (y/n)">物理メモリに対するイベント
                        を発生(y/n)</DESC>
            </PARAM>
```

NT_MemUtil を NT_コピーMemUtil に変更します

<PARAM NAME="DO_EVENT_VIRTUAL">
<DESC ENG="Raise event for virtual memory? (y/n)">仮想メモリに対するイベントを発生(y/n)</DESC>
</PARAM>
<PARAM NAME="DO_EVENT_PAGING">
<DESC ENG="Raise event for paging file? (y/n)">ページングファイルに対するイベントを発生(y/n)</DESC>
</PARAM>
<PARAM NAME="DO_DATA_PHYSICAL">
<DESC ENG="Collect data for physical memory? (y/n)">物理メモリに対するデータを収集(y/n)</DESC>
</PARAM>
<PARAM NAME="DO_DATA_VIRTUAL">
<DESC ENG="Collect data for virtual memory? (y/n)">仮想メモリに対するデータを収集(y/n)</DESC>
</PARAM>
<PARAM NAME="DO_DATA_PAGING">
<DESC ENG="Collect data for paging file? (y/n)">ページングファイルに対するデータを収集(y/n)</DESC>
</PARAM>
<PARAM NAME="TH_PHYSICAL">
<DESC ENG="Maximum physical memory threshold">物理メモリの最大しきい値</DESC>
</PARAM>
<PARAM NAME="TH_VIRTUAL">
<DESC ENG="Maximum virtual memory threshold">仮想メモリの最大しきい値</DESC>
</PARAM>
<PARAM NAME="TH_PAGING">
<DESC ENG="Maximum paging file threshold">ページングファイルの最大しきい値</DESC>
</PARAM>
<PARAM NAME="SEV_PHYSICAL">
<DESC ENG="Event severity level for physical memory">物理メモリがしきい値を超えたときのイベント警告レベル</DESC>

```
        </PARAM>
        <PARAM NAME="SEV_VIRTUAL">
            <DESC ENG="Event severity level for virtual memory">仮想メモリがしきい値を超え
                たときのイベント警告レベル</DESC>
        </PARAM>
        <PARAM NAME="SEV_PAGING">
            <DESC ENG="Event severity level for paging file">ページングファイルがしきい値を
                超えたときのイベント警告レベル</DESC>
        </PARAM>
        <PARAM NAME="PRM_KSERR">
            <DESC ENG="Event severity level for an unexpected Knowledge Script error">
                予期できない Knowledge Script エラーのイベント警告レベル</DESC>
        </PARAM>
    </KS>
</AM>
```

――― 以上 NetIQ_CUST.XML のサンプル ―――

単純に、コピーをしただけであるならば、KS 要素の NAME 属性の値を変更するだけです。

また、属性値を変更後、正しく XML が構成されているか、IE もしくは、無償もしくは市販の XML エディタで正常に開けるかどうかを確認することを忘れないようにしてください。

※　無償の XML エディタ（http://www.vector.co.jp/soft/win95/net/se205249.html ）

もし、新規にパラメータを追加したような場合は、直接 KS ファイル内で、日本語で定義するか、英語で定義後、NetIQ_CUST.XML にそのパラメータ情報を追加登録する必要があります。

以上